B 62

ファンデーションの機能に関する意識調査

○山口大教育　小林則子
広島大・医　田中純子

［目的］

成人女性を対象にファンデーション（ブラジャー，ガードル，ボディスーツ）の効用などに関する諸意識を調査し，年齢別，体格別，着用・非着用者別に分析を行う。

［方法］

調査対象：山口，広島，岡山県在住の成人女性855名。時期：昭和60年7月。調査方法：質問紙による依頼調査。有効回収率：84%。調査内容：年齢，身体寸法，ファンデーションの着用状況，サイズその他の選択方法，着用による効果・弊害に関する意識など。結果の処理方法：年齢，体格別などのクロス集計のほか数量化理論第Ⅱ類による分析。

［結果］

1．ブラジャーの常用者は若年層に多く，ガードルの常用者は中高年層の方が多い。2．ガードル，ボディスーツの効用に対する意識はブラジャーとは別傾向である。3．更に，意識のうち動き易さ，事務的仕事の能率，運動時の効果，圧迫感，着用感，肌ざわり，暑熱感などについては，年齢別，体格別に差が認められる。4．共学の女子学生と女子短大生とを比較すると，共学生の方に着用者がやや多く，サイズの選択はきつめ，選択理由は材質や着心地を重視，圧迫をより強く感じるが緊迫感を快いとする者が多い。5．数量化理論第Ⅱ類による分析結果では相関比0.67，的中率94.3%であった。意識の項目の中で年齢層および事務的仕事の能率，圧迫感，着用感，暑熱感の意識がファンデーションの着用者と非着用者の判別に適していた。